

# 中国における高齢者の 介護施設入居影響要素に関する実証分析

## - 寧波市における実態調査を中心に

白 金 龍\*  
李 海 峰\*\*

### 1. はじめに

2013年に中国の60歳以上の人口はすでに2.02億人に達している。2025年には3億人に達し、更に2050年に4.87億人を突破し、人口の34.8%を占めるようになる<sup>1)</sup>と予測されている。人口の高齢化に伴い、高齢者の生活保障は大きな社会問題となっている。特に一人っ子家庭にとって、子供は勤務している場合が多く、親の面倒を見ることが出来ないため、高齢者は介護施設への入居を余儀なくされるケースが増加している。したがって、近年中国では、介護施設に対する需要は急速に拡大している。各地政府は新しい介護施設の建設に対する投資を増加すると共に、民間資本に対し、様々な優遇政策を打ち出し、介護施設への投資を支援している。その結果、2014年の時点で全国の介護サービス機関や施設は94110に達し、ベッドの保有率は千人ごとに27.2枚に上った。しかし、先進国の50-70枚を大きく下回っている<sup>2)</sup>。2015年には生活が自立できない高齢者は4000万人に上り、多くの方は介護施設への入居や介護サービスを必要としている<sup>3)</sup>。

しかし、国有または公有介護施設への入居希望者は非常に多く、ほとんどの国有施設や公有施設への入居希望者は数年から十数年も待たなければならない状態となっている。一方、民営施設への入居希望者は不足しており、ベッドの利用率は非常に低く、ほとんど利益が出されず、政府の補助金に

---

\*白金龍：寧波工程学院 人文与芸術学院

\*\*李海峰：山东大学 経済学部

頼って運営されている。

こうした介護施設の過剰需要（国有，公有）や需要不足（民営）問題を明らかにするため，本研究ではアンケート調査をもとに高齢者の介護施設選択の影響要素について，分析を行った。

## 2. 先行研究の整理

中国における高齢者の介護施設需要に関する研究は1990年代からすでに始まっており，21世紀に入った後，迅速に増えている。熊躍（1998）<sup>4)</sup>の研究では，年齢や健康状況は高齢者の介護施設需要に強い影響を与えることが明らかになっている。嚴冬琴，黄震（2009）<sup>5)</sup>の研究では，経済的収入は介護施設需要に直接的な影響を与え，収入は高ければ高いほど施設への入居希望が低く，医療や健康サービスに対する需要が高いことが判明されている。また，家庭の介護能力は介護施設需要に明確な影響を与える。家庭の介護能力が高ければ高いほど，介護施設入居傾向が低い（張鵬，2016）<sup>6)</sup>。雷麗華（2017）<sup>7)</sup>の研究では，年齢，自立能力や婚姻状況は介護施設入居に強い影響を与えることが判明されている。年齢の増加に伴い，自立能力が低下すれば施設介護を選ぶ傾向が強まり，一人暮らしの施設介護を選択する傾向は配偶者のいる方の5.5倍となっている。また，子供の数が多ければ多いほど，施設介護要望が弱まる傾向がある。

都市部と農村部とにおいて高齢者の介護施設サービスに対する需要も異なっている。都市部の介護施設で老後を送る傾向が農村部より多い。その理由は，農村部は中国の伝統文化，つまり孝行文化の影響は都市部より強いいため，高齢者は介護施設への入居は子供の親に対する不孝行を意味しており，本人も，その子供たちも施設での介護を嫌がる傾向が強いようである（朱火雲，魏丹2015）<sup>8)</sup>。また，学歴別にみれば大学が高ければ高いほど介護施設に入居する傾向が強くなる。年金所得や医療保険のある高齢者は経済的に一定のリスクを負担できる能力があり，介護施設より，在宅介護サービスを好む傾向が強いようである。年金や医療保険は生活保障にとって，非常に重

要な役割を果たしている<sup>9)</sup>。しかし、中国では年金や医療保険はあまり普及しておらず、年金や医療保険のある方は全体の60%に留まっており、ほとんど企業の従業員や公務員など政府が強制的に納める人達に限っている(陳長香, 馮麗娜2014)<sup>10)</sup>。文化や娯楽など社会的活動に積極的に参加する方は介護施設を通じて様々な社会的活動に参加し、老後の精神的生活を豊かにするため介護施設に入居する傾向が強い(尚瀟滢2014)<sup>11)</sup>。

介護施設に入居している多くの高齢者は何らかの病気を患っているため、介護施設を選んでいる(周宇, 2010)<sup>12)</sup>。しかし、慢性的病気のある方とそうでない方の介護サービスや介護施設に対する需要に差異が見られない(楊敏, 錢英, 2012)<sup>13)</sup>。

高齢者の介護施設入居選択においては最も重視しているのはサービスの質と費用である。そのほかに、生活環境や居住条件、関連設備の充実さなども介護施設入居に強い影響を与える(劉同昌, 2001)<sup>14)</sup>。一般的に、医療サービスに対する需要は高いため(胡娟, 2008)<sup>15)</sup>、医療サービスが充実しているかどうかは介護施設選択の重要な基準となっている。

また、中国における高齢者の心理カウンセリングや精神的癒しに対する需要が高まっているため、介護施設にもっと専門化した管理や経営が求められている(呂新萍, 2004)<sup>16)</sup>。本稿では、上述の先行研究を踏まえ、介護施設に対する総合的認識や印象、介護施設における生活水準や料金に対する認識、在宅医療サービスに対する満足度などは介護施設入居の意欲にどのような影響を与えるかについて研究を行い、介護施設の需要と供給のアンバランスを招いた原因を明らかにすることを試みる。

### 3. データ、変数及び分析方法

#### 3.1 データ

本調査は2015年7月12日-7月26日、寧波市の5つの区と4つの県で行った。また、都市部と農村部は大きな差異があるため、本調査では都市部と農村部の間に人口規模に基づいて、サンプルを出来るだけ均衡に配布した。調査方法

は主に社区（コミュニティ）老人活動センターで高齢者の方の集中する時間帯を選び、調査票を持った調査員は聞き取る形で行った。サンプルの計算信頼水準  $\alpha = 0.05$  の場合、信頼度： $1 - \alpha = 95\%$ ；統計量：

$$Z_{1-\frac{\alpha}{2}} = 1.96$$

従来 of 経験に基づけば、寧波市の絶対誤差値  $E$  は  $5\%$ 。したがって、今回のサンプル数を下記の公式で計算した。

$$N_2^* = \frac{Z_{1-\frac{\alpha}{2}}^2 \times (P \times (1-P))}{E^2} = \frac{1.96^2 \times (0.5 \times 0.5)}{0.05^2} = 384.16 \rightarrow 385$$

また、予備調査で回収した有効アンケート調査表は配布した調査票の  $98\%$  だったため、有効サンプルを  $98\%$  であると予測し、最終的に配布するアンケート調査表の数を下記の公式で計算した。

$$N_2 = \frac{N_2^*}{P} = \frac{385}{0.98} \approx 392.85 \rightarrow 393$$

実際調査の中で調査員は寧波の方言をあまり知らないため、コミュニケーション上の誤差を解決するため、サンプルを従来の計算した数より大幅に増やし、最終的に回収した有効サンプルは  $803$  枚となった（表1）。

寧波市は浙江省に属しており、上海や杭州から近く、経済大都市である。2014年末、寧波市の60歳以上の人口は125.5万人に上り、人口の  $21.5\%$  を占めている。国際的標準から見れば、寧波市はすでに中度高齢化社会に入っている。今回の調査で寧波市を選び、近い将来中国の介護施設サービス需要を予測することを試みる。

表1 介護施設入居影響要素の変数, サンプル概要

変数	平均値	度数	パーセン テージ	変数	度数	パーセン テージ
介護施設入居意欲	2.840±0.971	803		年齢		
介護施設に対する認識	2.641±0.980	803		60-64歳 (=1)*	218	27.15
介護施設に対する印象	3.425±0.764	803		65-69歳 (=2)	220	27.4
介護施設生活水準に対する認知	3.133±0.622	803		70-74歳 (=3)	169	21.05
介護施設料金に対する認知	3.052±0.633	803		75-80歳 (=4)	87	10.83
在宅養老医療サービス満足度	3.616±0.767	803		80歳以上 (=5)	109	13.57
性別				学歴水準		
女性 (=0)*		428	53.37	小学以降 (=1)*	148	18.43
男性 (=1)		374	46.63	小学 (=2)	319	39.73
戸籍				中学校 (=3)	189	23.54
農村 (=0)*		344	42.84	高校 (=4)	111	13.82
都市 (=1)		459	57.16	専門学校 (=5)	19	2.37
健康状況	3.743±1.746	803		大学及び以上 (=6)	17	2.12
収入	3.329±0.640	803				
子供の意見	2.921±0.831	803				

## 3.2 変数

### 3.2.1 従属変数の選択

本文では高齢者の介護施設への入居意欲を従属変数として研究を行った。調査の中で、「あなたは介護施設に入居を希望しますか」という質問に対し、「1=まったく希望しない」「2=あまり希望しない」「3=わからない」「4=希望します」「5=非常に希望します」といった五つの回答を用意して、被調査者に回答してもらった。

### 3.2.2 独立変数の選択

(1) 個人的特徴。先述の先行研究でも明らかになっているように、高齢者の性別 (1=男性, 0=女性), 年齢, 学歴水準, 健康状況 (1=非常によくない, 2=あまりよくない, 3=わからない, 4=比較的良好, 5=非常によい),

戸籍（都市部=1, 農村=0）、収入、子供の意見（1=非常に反対, 2=反対, 3=わからない, 4=支持, 5=非常に支持する）など個人的や子供の状況は介護施設需要に強い影響を与えることが判明された。したがって、本稿では上述の変数を独立変数として設定した。

(2) 介護施設に対する認識。一般的に、介護施設サービスに対し、ある程度知っている人とあまり知らない人との間に意思決定上の差異が生じる。認識する程度は高ければ高いほど入居する確率も高まる。これは消費者のブランドや商品の購買行動と類似している。消費者は自分自身をよく接触し、よく知っている商品やブランドを優先的に選択する傾向がある。本文では「1=まったく知らない」「2=あまり知らない」「3=わからない」「4=ある程度知っています」「5=非常に知っています」といった五つの回答を用意した。

(3) 介護施設に対する印象。中国は儒教の孝行思想に強く影響されているため、介護施設に対し、マイナス的な印象は強い。近年経済の発展や社会の変動に伴いマイナス的な印象は減少しており、特に都市部では介護施設に対する印象は以前より大きく改善されている。しかし、農村部ではマイナス的な印象は以前として根強く残っている。本文ではこの変数を導入したのは、高齢者の介護施設に対する印象は介護施設入居意欲にどれほど影響を与えているかを明らかにすることが目的である。本文では「1=印象は非常によくない」「2=印象はあまりよくない」「3=よくわからない」「4=印象はよい」「5=印象は非常によい」といった五つの回答を用意した。

(4) 介護施設での生活水準に対する認識。介護施設生活水準は高いと評価された場合、入居に積極的になる可能性があり、低く評価された場合、入居意欲は弱くなる。本文では「1=生活水準は非常に低い」「2=生活水準は低い」「3=わからない」「4=生活水準はまあまあ高い」「5=生活水準は非常に高い」といった五つの回答を用意した。

(5) 介護施設の料金に対する認識。中国では公営介護施設の料金は非常に安いのに対し、民営施設の料金は割高となっており、民営施設入居者不足の

一因となっている。本文では「1=料金は非常に低い」「2=料金はまあまあ低い」「3=わからない」「4=料金はまあまあ高い」「5=料金は非常に高い」といった五つの回答を用意した。

(6) 在宅医療サービス満足度。在宅医療サービス満足度は高ければ高いほど、介護施設入居意欲が低下する。本文では「1=まったく満足していない」「2=ある程度満足していない」「3=わからない」「4=ある程度満足している」「5=非常に満足している」といった五つの回答を用意した。

### 3.3 分析方法

まず、最小二乗法 (OLS) を用いて、回帰モデルを構築し、分析を行った。順序回帰モデルの結果と比較する。次に、一般的な順序logitモデルを用いて推定を行い、最小二乗法 (OLS) の分析結果と比較する。モデル中の従属変数「介護施設入居意欲」は順序変数であるため、多項logitモデルを用いた場合、順序データは欠損し、統計結果は順序データ漏れにより、効率を失う。一般的な順序回帰モデルを用いた場合、平行仮定は満足できるかどうかという問題が生じる。したがって、本文では平行仮定を緩めた一般的な順序probitモデル ((generalized ordinal probit model) を用いて推定を行った。また、「介護施設入居意欲」測定データは両端削除状態が生じる。つまり、記録された値は潜在変数のすべての情報を反映することが出来ない。例えば、被調査者は「まったく希望しない」と答えた場合、どれほど希望しないのかが未知であり、このような回答の設計は一つの圧縮点が存在する。即ち、データ情報の左側削除現象が生じる。同時に、被調査者は「非常に希望する」と答えた場合、いったいどの程度希望するのかが未知である、このような回答の設計も一つの圧縮点が存在する。即ち、データ情報の右側削除現象が生じる。こうしたデータ情報の削除現象は推計値の誤差を大きくする。この問題を解決するため、本文では順序Tobit回帰モデルを用いて推定を行った。

介護施設への入居影響要素を明らかにするため、本文ではいくつかの異

なるモデルを構築し、分析を行った(表2)。その中で、モデル1はOLS推定、モデル2、モデル3は一般化順序probitモデル及び一般化順序Tobit回帰モデルである。表2の分析結果、モデル2(順序probitモデル)の推定は最も有効的であるため、本文ではモデル2を解釈モデルとして選定した。表2からもわかるように、モデル2の適合度は一番よく、元のモデルの推定誤差を改善した。分析の結果、性別、年齢、学歴、子供の意見、介護施設に対する総合的認識、印象、生活水準や料金に対する認識、養老保険満足度、在宅医療サービスに対する満足度などの変数に統計的有意性が認められた(P<0.05)。

順序probitモデルの分析結果から見れば、女性の介護施設への入居意欲は男性より強い。また年齢が高くなるにつれ介護施設への入居意欲は強まる。学歴の中で、大学以上は小学以下より介護施設への入居意欲は強く、2.08倍(0.73probit単位)となっている。また子供の意見は高齢者本人の介護施設への入居意欲に対し非常に強い影響を与えている。介護施設に対する総合的認識の中で、介護施設に対する総合的認識が強ければ強いほど入居意欲は強くなる。また、介護施設に対する印象は入居者の意欲に強い影響を与える。介護施設における生活水準に対する評価は高くなればなるほど入居意欲は強くなる。介護施設料金と入居意欲の間に負の因果関係があり、料金は介護施設への入居に強い影響を与えていることがわかる。また、在宅介護医療サービス満足度は高ければ高いほど、介護施設への入居意欲が弱くなる。

表2 介護施設入居意欲影響要素に対する回帰分析

	モデル1： 線型回帰モデル	モデル2： probit回帰モデル	モデル3： tobit回帰モデル
性別 (女性=0)			
男性=1	-0.199 (0.061)***	-0.271 (0.087)***	-0.202 (0.064)***
年齢	-0.048 (0.022)**	-0.068 (0.031)**	-0.049 (0.034)**
戸口 (农业=0)			
非农业=1	0.119 (0.068)*	0.169 (0.096)*	0.127 (0.719)*



文化程度 (未上过学=0)			
小学 (=2)	-0.062 (0.081)	-0.102 (0.115)	-0.073 (0.085)
中学校 (=3)	0.047 (0.097)	0.077 (0.137)	0.050 (0.102)
高校 (=4)	0.091 (0.112)	0.159 (0.157)	0.105 (0.117)
専門学校 (=5)	0.145 (0.206)	0.168 (0.294)	0.139 (0.216)
大学及び以上 (=6)	0.510 (0.213)***	0.731 (0.305)***	0.559 (0.226)***
健康状況	-0.032 (0.021)	-0.045 (0.031)	-0.031 (0.022)
収入	-0.064 (0.048)	-0.109 (0.068)	-0.076 (0.050)
子供の意見	0.398 (0.035)***	0.548 (0.052)***	0.416 (0.037)***
介護施設に対する認識	0.134 (0.032)***	0.191 (0.045)***	0.145 (0.033)***
介護施設に対する印象	0.310 (0.042)***	0.442 (0.060)***	0.337 (0.044)***
介護施設生活水準に対する認知	0.040 (0.047)	0.055 (0.066)	0.035 (0.049)
介護施設料金に対する認知	-0.124 (0.045)***	-0.191 (0.063)***	-0.137 (0.047)***
在宅養老医療サービス満足度	-0.082 (0.040)***	-0.133 (0.056)***	-0.091 (0.042)**
切片	0.786 (0.029)**		0.779 (0.314)**
切片1		0.521 (0.421)	
切片2		2.615 (0.424)	
切片3		3.449 (0.430)	
切片4		5.172 (0.448)	
sigma検査			0.827 (0.021)
サンプル (N)	803	803	803

#### 4. 分析結果と考察

本文では高齢者の介護施設への入居意欲に対する影響要素について、計量的分析を行った。分析結果から見れば、介護施設に対する総合的認識、印象、生活水準や料金への認識は入居意欲に影響を与えていることが判明された。中国では老後の生活を子供が面倒を見るという古くからの文化があり、昔は子供に頼り老後の生活を送ることが当たり前だった。新中国建国以降、都市部では国や政府は老後の面倒を見るという考えが一般的となったが、農村部では依然として子供が老後の面倒をみるのがあたりまえであった。

しかし、一人っ子政策を導入した後、子供が親の面倒を見るのが難しくなり、施設介護を余儀なくされるケースが増加している。しかし、本文の高

高齢者に対する調査では介護施設への入居を「希望しない」と答えたのはサンプル全体の45%を占め、「希望する」と答えたのは29%に止まっている。「希望しない」は「希望する」を大きく上回る結果となった。また、介護施設への入居を「希望する」と答えた中で、「民営施設への入居を希望する」と答えたのは全体の3%に止まっており、ほとんどの被調査者は公営施設への入居を希望している。この結果から見れば、今日の中国において、民営介護施設は介護施設サービスマーケットで競争力は非常に弱いことが明らかになった。また、介護施設サービスに対し、「知っている」と答えた人は22%となり、「あまり知らない」と答えた人は50%を占めている。これは、今日の中国では介護施設サービスについての広告宣伝は欠如しており、多くの高齢者は介護施設に関する情報にあまり接触していないことを意味している。民営介護施設としては高齢者向けの広告を積極的に発信することによって、民営介護施設への入居意欲が強化させられることになる。

また、図1からわかるように、介護施設に対する情報の入手ルートは「友人、親戚」21.5%、「社区」(コミュニティ) 15.4%、「テレビ、ラジオ」15.1%の順になっている。民営介護施設は高齢者が普段よく通っている社区(コミュニティ)や普段よく接触しているラジオなどを通じて、広告宣伝を行えば一番効率的であると考えられる。中国では高齢者が多く住む古い社区では「社区養老活動センター」が設けられており、娯楽やコミュニケーションは「社区養老活動センター」で行われている。民営介護施設は「社区養老活動センター」を通じて、自社の介護サービスを宣伝したり、説明会を開いたりすることによって、自社施設に対する認識や印象を高めることが出来る。

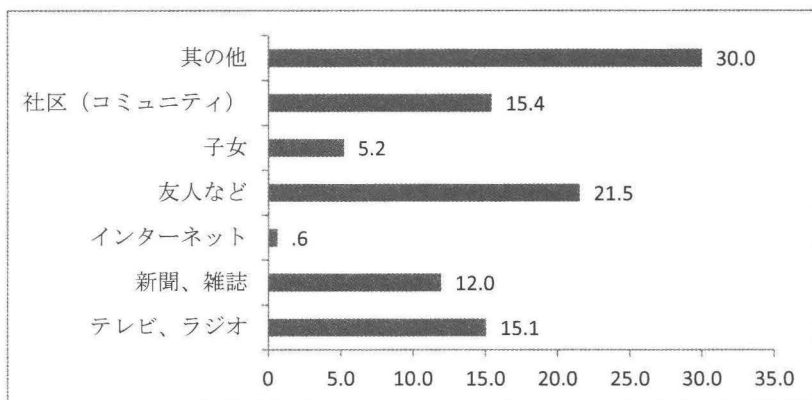


図1 介護施設情報入手ルート

高齢者の方の介護施設での生活水準に対する認識は入居意欲に影響を与える。もし、介護施設での生活水準は高いと認識すれば入居意欲は強まる。したがって、民営施設として、インフラ設備投資を増やし、生活環境を改善するだけでなく、食料、医療サービスや精神的慰めなどソフト的な面でも改善を行い、生活水準を引き上げることが必要である。特に医療サービスは高齢者にとって最も必要としているサービスである。本文のprobitモデル（表2）でも明らかになっているように、在宅介護の中で医療介護に対する満足度と介護施設入居意欲の間に負の因果関係が示されている。図2でも示されているように、高齢者の方は介護施設で受たいサービスの中で「医療サービス」に高い値が与えられている。民営介護施設として、医療サービスを備えることによって、競争力を強化することが可能であろう。

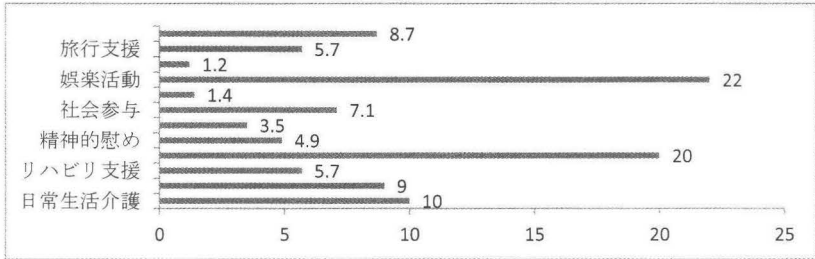


図2 介護施設で受たいサービス

また、高齢者の方の介護施設への入居意欲と料金との間に負の因果関係がある。中国では多くの介護施設は国や政府が運営しているので、価格は政府が制定しており、一般的に公営介護施設の料金は非常に安く設定されている。本文の調査では、寧波市のほとんどの公営施設の料金は月1500元となっており、施設の地理的位置、設備や生活環境は非常に優れている。これらの料金が安く、インフラなど生活環境の優れた介護施設に入居するため数年から、十数年間ぐらい待たなければならない状態となっている。しかし、その反面、寧波市の民営介護施設の料金は月約4500元、設備は優れているが、料金が割高となっており、郊外に位置しているのは多く、ほとんどの民営介護施設への入居率は非常に低い状態にある。本文の調査結果（図3）では、介護施設入居の際に一番考慮する要素は料金（20.6%）となっている。

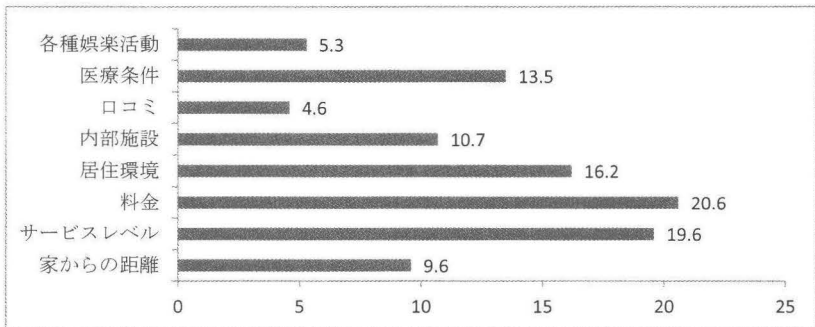


図3 介護施設を選択する際に考える要素

中国の社会では介護施設への入居料金は安くて当たり前だという常識は定着しており、多くの方は経済的に支払う能力があっても民営介護施設ではなく、公営介護施設に入居することを希望している。しかし、すでに高齢化社会に突入している中国にとって、政府だけの力で高齢者の介護施設に対する需要を充足させることが不可能である。近年改革され、一部の施設では公建民営（政府が出資して建設し、民間企業が経営）という形式を取っている。政府は一部の介護施設の経営権を民間企業に委託し、日常的な経営現場から退き、コスト削減や効率の向上を図っている。しかし、民間企業は日常的管理の権利しかなく、価格設定権利を有していない。公営介護施設と民営介護施設は不公平な価格競争の現象があると考えられる。

政府の介護施設産業への直接的加入は介護施設産業の合理的な価格設定の妨げとなっており、公営施設の低価格は民間資本参入の大きな障壁となっている。政府として、三無（労働力がなく、収入はなく、面倒を見る人はなく）、無料で介護施設サービスを提供する以外、マーケット需要に基づいた価格設定をする必要がある。マーケットは価格によってセグメントされれば、民間企業は自社の投資や経営力によって、低級から高級まで様々なレベルの介護施設サービスを提供することが可能となるのであろう。入居希望の高齢者も自分自身の経済的能力によって、介護施設を選択することも可能となり、市場は活性化されることにつながる。

## 5. 小括

本稿は高齢化が急速に進んでいる中国における介護施設入居需要の影響要素について計量的分析を行った。高齢化が進むにつれ、介護施設のサービスに対する需要も急速に高まっている。高齢者の性別、年齢、学歴など個人的特徴は介護施設の入居意欲に影響を与える。そのほかに、介護施設は、需要と供給のアンバランスな状態が続いており、介護施設のサービス産業の成長だけではなく、老後の生活にも大きな影響を与えている。需要と供給のアンバランスな状態を招いている原因は次の二つあると考えられる。

一つは、民営の介護施設の宣伝不足である。民営の介護施設はマーケット開拓戦略をあまり実施しておらず、介護施設に関する情報は欠如している。介護施設を運営する企業は各地域に分散されており、零細企業が多く、有名なブランドはないのが現状である。民営介護施設として、政府の援助に頼らず、競争意識やブランド意識を持って、積極的にマーケット開拓や経営改善を行い、競争力を高める必要がある。

もう一つは、政府の介護施設サービスへの直接的関与である。政府は公共資金で一般福祉業として介護施設を建設し、運営しているため、価格が低く設定されており、民間の資本投資の妨げとなり、供給不足状態を招いている。公営施設は住民福祉の一環として位置づけられているため、一般企業のような利潤最大化を図る必要がない。しかし、民営介護施設は普通の企業として利益を生み出す必要があり、経営コストと利益を考慮し、価格を高く設定している。したがって、低価格の公営施設への入居に集中し、高価格の民営施設への入居を希望する人が少ない。民営施設にとって、入居率が低くなればなるほどコストが上昇し、利益が見込めなくなるため、政府の援助が必要となる。こうした悪循環は需要と供給のアンバランスを招き、介護施設の産業化の障害となっている。政府としては、介護施設産業から撤退し、市場改革を行う必要があると考える。

#### 参考文献

- 1) 吴玉韶, 党俊武主编『中国老龄产业发展报告(2014) [M]』. 社会科学文献出版社, 2014.
- 2) 陈雷「从补缺型迈向民享型: 我国机构养老服务治理与发展战略研究 [J]」. 『理论导刊』, 2016 (01) pp.4-8.
- 3) 同2
- 4) 熊跃「需要理论及其在老人照顾领域中的应用 [J]」. 『人口学刊』, 1998, 5巻, pp.31-40.
- 5) 严冬琴, 黄震方「城市老年人养老休闲需求与选择行为研究——以长江三角洲地区老年市场为例 [J]」. 『江苏商論』, 2009 (5).

- 6) 张鹏「家庭照料能力与机构养老意愿实证分析——基于苏州市相城区52273位老人的调查 [J]」. 『当代经济』, 2016, 16卷. pp.101-103.
- 7) 雷丽华「机构养老方式的影响因素实证研究——以海南为例 [J]」. 『统计与管理』, 2017, 3卷. pp.30-32.
- 8) 朱火云, 魏丹「我国养老方式选择的变化及其影响因素分析 [J]」. 『福建行政学院学报』, 2015, 6卷. pp.46-55.
- 9) 同8.
- 10) 陈长香, 冯丽娜「“需要层次理论”下老年人机构养老意愿实证分析——以河北省为例 [J]」. 『河北联合大学学报』(社会科学版), 2014, 14 (04) pp.16-21. [2017-09-20].
- 11) 尚潇滢「我国城市独生子女家庭养老模式选择意愿及影响因素分析 [J]」. 『宁夏社会科学』, 2014年, 3卷. pp.64-72.
- 12) 周宇「养老机构发展呼唤创新——基于北京市海淀区养老机构的调研 [J]」. 『技术经济与管理研究』, 2010年, 5卷. pp.115-118.
- 13) 杨敏, 钱英「城市社区老年人养老方式选择及其影响因素研究 [J]」. 『护理研究』, 2012年, 1卷. pp.37-39.
- 14) 刘同昌「社会化:养老事业发展的必然趋势——青岛市老年人入住社会养老机构需求的调查 [J]」. 『人口与经济』, 2001年, 2卷. pp.77-80.
- 15) 胡娟「上海市不同老年群体居家养老服务需求与对策研究 [D]」. 『上海社会科学院』, 2008年.
- 16) 吕新萍「养老院老人的需求与养老机构专业化——对北京市某养老院的个案研究 [J]」. 『人口与经济』, 2004年, 1卷. pp.65-68.